



令和5年12月15日  
第876号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区  
千代田一丁目六番五号  
九段南一丁目テラス四階  
電話 03-3261-5521  
00160-6-25389  
電報掛 00160-6-25389  
編集 盛川英治  
発行 盛川英治  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 組織継承 平和の語り部 常務理事会で審議 事業計画、育成書を承認

11月8日、常務理事会が開催され「語り部」の事業計画、育成書が審議された。全国揃って開始することへの不安も聞かれたが、事業の重要性に鑑み努力すること、具体案をその都度担当が示すことで了承された。本事業計画、育成書は本部から全国支部へ送付され、各支部で見を集約し、その後の常務理事会、理事会で諮る予定である。

戦後80年に向けた組織継承3カ年計画の柱の一つである「平和の語り部」の事業化については、戦争の記憶を全国的に伝承する重要性に鑑み、国は来年度概算要求に新規事業として2500万円を計上したことは前号で伝えたと同様である。今後は、本事業を確実に

に実施するため、今次常務理事会では、事業計画、育成書が説明された。担当から説明された事業のポイントには以下の通り。  
○事業計画について  
(1)講話に拘らない幅広く多様な活動  
各地の遺族会が長年培ってきた平和を語り継ぐ活動は、従来の講話に捉われない幅広い活動が含まれ、それゆえに利用者の理解が深められていると考えられる。  
○事業計画については、本事業も同様に、戦争の記憶を伝承する幅広く多様な活動を「平和の語り部事業」として実施すること、体験者



常務理事会で挨拶する水落敏栄会長=11月8日、九段会館テラスで

令和5年11月25日、26日の両日、奈良県のホテルリガール春日野において青年部第3ブロック研修会が開催された。  
研修会では、本部広報担当が、戦後80年に向けた組織継承3カ年計画を説明し、特別弔慰金継続と語り部事業実施についてその重要性を示し、理

## 青年部第3ブロック研修会 奈良県で開催

解と協力を求めた。

また、事前の提出課題に基づき各府県から活動内容、今後の課題などが発表され、意見交換がなされた後、青年部世代の「平和の語り部」活動の方向性を示す参考事例として、兵庫県遺族会青年部・大東潤副部長の作成した動画を視聴し、閉会



遺族会の今後の展望を語る水落敏栄会長=11月25日、奈良市で

青年部として初の試みであるブロック研修会では、第1(福島県)、第5(大分県)で既に開催され、今後の遺族会のあり方や語り部事業をどのように形作っていくのかなどを討議し、情報や悩みを共有することにより、継承者としての考えを明確にし自覚を見出すための場として意義あるものとなっている。

拘らない当事業の特性を生かし、多くの人が参画しやすい育成とする。つまり、個人の専門性を高めることより、体験者の記憶や地域の歴史を共同で調べる中で、戦争の記憶を伝承する意識の醸成に重きを置く。詳細は、各支部の意見を反映させた計画書、育成書を令和6年2月の理事会で審議し、了承が得られ次第掲載予定。

## 第68回奉納菊花展 靖国神社で開催

靖国神社社務局長が出席し、祝辞を述べるとともに、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。

靖国神社において第68回奉納菊花展が10月16日から11月5日にかけて開催され、境内に設けられた特設帳舎に美しい菊花大輪が奉納展示された。11月22日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、本会から盛川英治社務局長が出席し、祝辞を述べるとともに、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。  
彩胡秋枝 尾林正成  
宝幸友愛 稲葉慎吉  
宝幸友愛 島山清美  
多摩の景勝 高瀬偉季雄  
(順不同 敬称略)

## 本会の諸会議

本会が11月8日以降、開催した各種会議は次の通り。  
▼常務理事会 11月8日  
①英霊顕彰・処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法②第78回全国戦没者遺族大会の運営③計算書について。  
▼監事会 11月9日  
①令和5年度各会計等上半期計算関係書類の監査②令和5年度支部事務局職員共済会上半期月次決算の監査について。

## 声なき声

新型コロナウイルス感染症の猛威も下火となり、戦跡慰霊巡拝事業も訪問地の感染状況を確認しつつ実施しているが、今回、11月下旬に出発したフィンランド慰霊友好親善訪問団に小欄も同行したので、感じたことを書いてみたい。  
▼参加者の平均年齢は80歳を超えたが、皆さんしっかりと足取りで元気なことに安堵。初めに亡き父の眠るフィンランドの地に訪れた方も多く、元気がうちに一人でも多くの遺児が参加できるように事業周知を強化したい。  
▼本事業は令和7年度で終了するが、遺児に付添い参加する孫、ひ孫の青年部世代が増えている。現地での慰霊を通して遺児の亡き父への思いに初めて触れ、自身のルーツを見つめ直す貴重な体験となっている。▼青年部世代には、慰霊巡拝だけでなく、戦没者の遺骨収集、遺留品返還事業などさまざまな遺族会活動に積極的に参加して、心揺さぶられる経験から得たことを「平和の語り部」として次の世代に語り継いでほしい。▼今もなお世界各地で紛争が続いており、幼い子供たちが巻き込まれ犠牲となっている状況が日々ニュース映像として映し出されることにより、いつ平和な日常が壊されるかわからないことを知った若い世代が戦争の悲惨さ、平和の尊さを見つめ直す時が来ている。(M)

新年のお参りは  
靖国神社へ  
神恩感謝・国家安泰・家内安全など  
令和六年  
初詣  
FIRST SHRINE VISIT  
甲辰  
靖国神社社務所  
電話 03(3260)8026(代)  
公式ホームページ  
https://www.yasukuni.or.jp/

# 平和の語り部事業化へ

## 継承策具体化への行程了承

全国を5つの地域で活動を話し合うブロック会議は10月18日に終了した。また青年部ブロック研修会は第1、第5ブロックで開催、10月23日には女性部研修会、同月26日には事務局長・職員研修会が開催され、親会・女性部・青年部・事務局において組織継承策に向けた行程が審議された。前号に引き続き各会議等での意見を紹介する。

### 語り部事業化にむけた意見

- (5)見せ方
  - ①講話+パワーポイント
  - ②講話+紙資料+映像
  - ③講話+パワーポイント+映像+質疑
  - ④講話+パワーポイント+実物資料+ファイルワーク(体験)
- (6)協力要請機関
  - ①地方自治体
  - ②学校教育機関
  - ③課題
    - (1)活動環境の整備
    - (2)学校側の理解
    - (3)語り部をもっと実施したいという思いがあつて

### 語り部育成の取り組み

#### 妙高市、小松市で

各地の遺族会で開催される研修会に本会から担当職員を派遣し、組織継承策について内容を説明しているが、中でも活発な意見が交わされた「語り部」事業について、妙高市遺族会、小松市遺族会の取り組みを紹介する。

11月5日、新潟県妙高市では、平成30年度に市非核平和都市事業の一環として、戦争体験



平和の語り部講話者育成の必要性を語る間島英夫妙高市遺族会会長 =11月15日、妙高市で

市遺族会では、市役所コラボホールにおいて「平和の語り部養成講座」を開催した。会員はじめ、市内外から、戦争記憶の伝承に関心を寄せる約37人が参集した。

妙高市では、平成30年度に市非核平和都市事業の一環として、戦争体験者による映像を収録し、市内小中学校で語り部授業に活用している。

また、同市遺族会では、戦没者の遺品が散逸しないよう登録し、生きた教本として次世代へ継承するよう戦没者記憶展等で展示している。

同市の取り組みは、長年市議会議員を務めた間島英夫会長の人脈と熱意によるところが大であり、今後の課題は、語り部講話者の高齢化による世代交代として、青年部への継承のため、今回の語り部養成講座の実施となった。

青年部を代表して挨拶に立った小林保治部長は、「勉強を重ね、活動できるように努力したい」と決意を述べた。同講座は、地

八王子、宮崎、福岡等では、自治体が、空襲被害のビデオを作成しており、それをうまく活用させている。

また、1人だけの体験では単調なので、2人(各10分)+空襲ビデオ(10分)+質疑(10分)という授業展開が効果的との報告あり(八王子)

④広報活動  
語り部活動については地元紙等で大きく報道されているため、今後は能動的に広報すべき。

(対応)  
・本部からプレスリリース等のひな型を送って広報を後押しする。支部は日頃より地元報道機関と交流を図る。

元紙、ラジオ局等を取り上げられ反響を呼んだ。11月7日、石川県小松市遺族会は、粟津温泉喜多八において、令和5年度合同研修会を開催し、遺族約40人が参加した。「語り部」を含む組織継承策は、次世代へ継承するため、青年部の組織化が肝となる。状況を問われた山口俊一郎会長からは「本会の水落会長からの要請もあり、石川県でも年度内に結成すべく準備している。」との回答があった。

研修会では、語り部について活発な意見が交わされ、孫が小学生の時に夏休みの課題として、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えるため、戦没者の足跡を調べる協力の経験

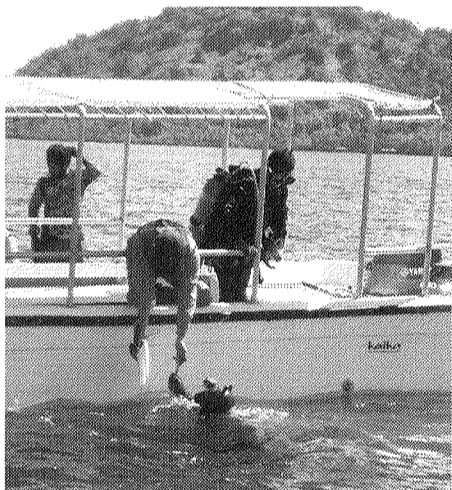
### 調査派遣を相次いで実施

#### トラックで海没遺骨を収容 諸島

日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協会)は、10月から11月にかけて海外5地域、国内硫黄島(別掲)に相次いで現地調査、遺骨収集、フォローアップ報告あり(八王子)

④広報活動  
語り部活動については地元紙等で大きく報道されているため、今後は能動的に広報すべき。

(対応)  
・本部からプレスリリース等のひな型を送って広報を後押しする。支部は日頃より地元報道機関と交流を図る。



「清澄丸」の船内調査を開始する潜水士 =10月21日、トラック諸島で

### 令和5年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催 現地調査・遺骨収集派遣実施表

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数
パラオ諸島現地調査 第3次	ベリリュウ島、アンガウル島	10月2日~10月16日	1人
トラック諸島(沈没艦船)現地調査・遺骨収集	沈没艦船(清澄丸・神国丸)	10月17日~10月29日	1人
マーシャル諸島現地調査・遺骨収集	ウォンゼ島	10月24日~11月8日	1人
ビスマーク・ソロモン諸島現地調査 第3次	ブーゲンビル島	10月1日~10月15日	1人
インド現地調査 第1次	ナガランド州コヒマ周辺	10月1日~10月17日	2人

### <硫黄島 フォローアップ調査・遺骨収集>

派遣名	実施地域	実施期間	本会参加人数
フォローアップ調査 第8次	硫黄島	10月10日~11月1日	1人
フォローアップ調査 第9次	硫黄島	10月31日~11月16日	1人

料情報等に基づいて発見した遺骨を収容し、DNA鑑定用の検体を採取し、遺骨収集派遣によって直ちに送還できるように準備しているが、今回トラック諸島(現ミクロナシア連邦ニューク州)のモエン島海域の沈没艦船「神国丸」「清澄丸」の2隻から潜水士によって「海没遺骨」6柱が収容され、内4柱の検体を送還した。送還した検体は厚生労働省へ引き渡され、今後、人種の特定と次派遣が中止となった。

戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。なお、硫黄島は、10月下旬に硫黄島沖で発生した噴火の影響により、第3次遺骨収集派遣及びフォローアップ調査第10次派遣が中止となった。

### 青年部活動紹介

#### 福井県次世代の会

福井県遺族連合会次世代の会奥野副会長は、11月10日、戦没者の伯父の生誕百年の節目に福井県護国神社で慰霊祭を行った。伯父は20歳で召集され、昭和19年激戦地

が出来たとの話があり、これから遺児の記憶を呼び起こし、語り部の準備をするのは難しいが、既存の図書の中から読み聞かせをすることから「語り部」事業と出来ないかとの提案があった。

本部担当者は、こうした提案を受け、現在各都道府県支部内に、戦争の記憶を伝える書籍、DVD等の動画がないか調査を依頼している。

いずれの研修会でも、既に語り部を実施している地域から取り組みが遅すぎるとの指摘があったが、次世代への教訓として必ず伝承すべく、青年部と共に取り組もうとの意見でまとまり、本部は、今後とも計画の周知に努めていく。



伯父の生誕祭を通して戦争の悲惨、平和の尊さを伝える福井県次世代の会奥野副会長 =11月10日、福井県護国神社で

外において最大の約52万人強の戦没者数を数える。奥野副会長は「戦没者の存在が途絶えてしまうことが戦没者に対し一番申し訳ないことであり、忘れてはいけない」という思いから生誕祭を厳行したと理由を語った。この生誕祭は、地元テレビ局などで報道され、大きな反響があつた。

戦後78年が経過し、遺族会の中核である遺児の平均年齢が82歳となり、

戦争の記憶が風化されつつある今だからこそ、その記憶を伝承しなければならぬ。

今日の日本の平和と繁栄の礎に、尊い生命を犠牲とされた戦没者の存在があることを、「平和の語り部」として未来永劫語り継いでいくために、青年部世代には、まずは戦没者を偲ぶことから始め、積極的に語り部の活動に参画することが求められている。

### 本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されたい。本会にお問い合わせください。



# 好業 青年部世代とともに慰霊 友事 慰親 慰善 ソロモン諸島、フィリピンで

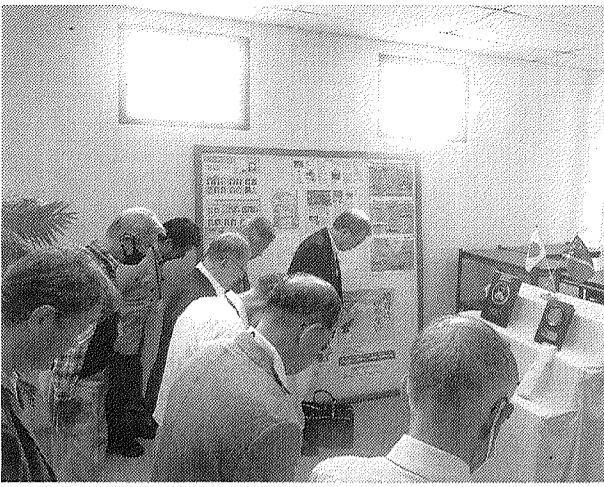
戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、ソロモン諸島、フィリピン地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部等の付添者15人を含め総勢81人が参加し、永年の念願であった亡き父の眠る地で慰霊祭を執り行い、父と語り慰霊の誠を尽くした。また、各地においては小学校、病院を訪問し現地関係者と友好親善を図った。

ソロモン諸島は11月12日から11月19日、フィリピンは11月24日から12月1日の期間で実施し、各訪問団員は期間初日に東京・九段会館テラスに集合して結団式を行い、靖国神社で慰霊巡拝の奉告と旅の安全を祈願した後、父が眠る縁の地へと出発した。

ソロモン諸島  
水落敏栄本会長を団長とするソロモン諸島慰霊友好親善訪問団(団員9人)は11月13日午後、成田空港を出発しフィリピン・マニラとパプアニューギニア・ポートモ

## ソロモン諸島

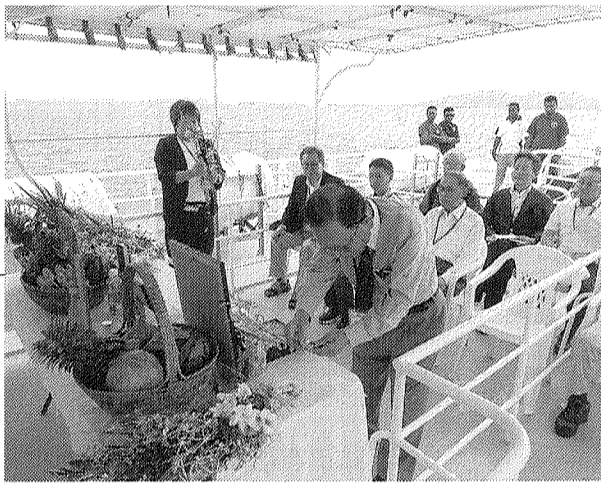
翌15日、ホニアラから飛行機でニュージョージア島ムンダに向かい、途中ココロンバンガ島上空付近の東側海域のクラ湾と西側海域のベラ湾を臨み、手を合わせ機上から遙拝した。ムンダでは空



仮安置されているご遺骨に黙祷する訪問団  
=11月14日、在ソロモン日本国大使館で

港近隣で慰霊祭を行い亡き父の冥福を祈った。16日には、船舶をチャーターしてホニアラ港を出

発し、小雨降る中、一路ツラギ島を目指し北上。ツラギ島は20キロ地点



洋上慰霊祭で献花する団員  
=11月16日、ガダルカナル島タサファロング沖合で

に慰霊の誠を捧げた。午後は、デিশヨブ・エブレカトリックスクールの先生と生徒たちに学用品、衣類、スポーツ用品等、国立中央病院には車椅子等を寄贈し現地の方々との友好を深めた。

17日、アウステン山慰霊碑にて全戦没者追悼式を挙行し、夜は大使館と地元小学校の代表を招いての懇談会が開催され、所期の目的を果たし全員無事に帰国の途についた。

伊藤早苗本会常務理事(三重県遺族会会長)を総括団長とするフィリピ

ン慰霊友好親善訪問団(団員72人、付添者含む)は、羽田空港から夜行便にて現地に着後、6班に分かれフィリピンの各地で慰霊祭を行った。

A班はマニラ東方山地のイボダム、ボソボソ、アンチポロ、モンタルバン、マニラ郊外のハゴノイで、B班はルソン島中部西方のマシントンやバタアン半島のカブカパン付近、タリサイ河付近、マニラ東方山地のバタンバヤン、マニラ南方のル

セナ海岸で、C班はルソン島北西部のルナ、イリサン、ボントック道やルソン島中部のタルラック、クラークで、D班はルソン島北東部のブナカン、バレット、バヨンボン、コルドン、キャンガン、サリナス、ルソン島中部のカバナツアンで、E班はパナイ島イロイロ州パピヤ方面やミンダナオ島のダバオ海岸、カタルナドで、F班はレイテ島のドラック海岸、ドロレス

方面、オルモック周辺、カンギボット方面で慰霊祭を行い、亡き父に積年の思いを語りかけると共に冥福を祈った。

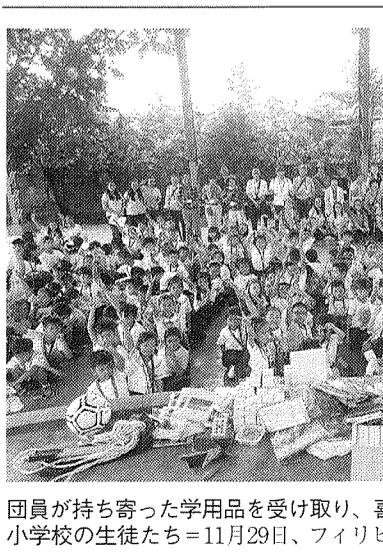


母に付添い参加し、慰霊祭で追悼文を読み上げ亡き祖父に語りかける孫=11月27日、フィリピン・バターン半島で

わって血の繋がっている自分を連れて慰霊に来たことに気づいたことなど、今の心境を追悼文に込め「今ある自分はその後も祖父の血を引き継いでいくのだ」ということを気づかせてくれました。また職場の友人は涙を流しながら線香を持たせてくれました。今日この日を忘

れず、これからも精一杯生きていきます」と慰霊祭で読み上げた。

11月30日、ルソン島ラグナカリラヤの「比島戦没者の碑」前で、本会を代表して水落敏栄本会長、在フィリピン日本国大使館より越川和彦特命全権大使、田村麻衣子政務参事官、堀和一郎参事官参



団員が持ち寄った学用品を受け取り、喜ぶサンタマローナ記念小学校の生徒たち=11月29日、フィリピン・カバナツアンで

## 遺児の参加者募集

### 付添者(青年部)に補助

戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、参加者を募集している。

本年度より次世代青年部へ戦争の記憶を語り継ぎ、育成することを目的として、戦没者の孫、ひ孫、甥、姪(青年部)が遺児に同行する場合には、国より3分の1の補助(※1)が受けられるこ

ととなった。一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。募集要項は次の通り。

▼時期及び地域 実施計画概要参照。

▼参加費 10万円。

※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所から

の交通手段は自己手配。移動に係る交通費、宿泊費等は自己負担となる。

▼参加資格 戦没者の遺児(周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る)。

▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。事前に申込書を取り寄せ、不明点(戦没者の部隊等)は各遺族会に相談し、全て記入した上で提出願いたい。(資格審

## 実施計画概要

(広域地域/特定地域)

実施地域	実施時期	募集員	申込締切
1 フィリピン(2次)	令和6年 3月8日~3月15日	120人	1月7日
2 中国	令和6年 3月21日~3月29日	80人	1月20日

## 本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。なお、賛助者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があります。省略します。

賛助者名(敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等)  
佐藤節治郎、長崎県遺族連合会会長山下裕子、梅澤弘一、伊波卓也、藤井孝子、田中龍治、岡部

博明、谷口愛一郎、近藤義行、田中邦芳、谷口晴人、尾崎正道、百田節子、小川忠矩、小西藤司、ヨコヤマノリヨシ、ウチダトシヒコ(以上、11月1

日から11月末日まで)皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業、慰霊巡拝等のさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。

## 日本遺族会への賛助金のお礼

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

郵便振替  
0013002694929  
みずほ銀行 九段支店  
普通預金 09880930

※口座名は「一般財団法人日本遺族会」です。二重インパクト

# サイパン島で慰霊碑埋設へ 海外民間建立慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、11月12日から17日の期間で事務局2人をマリアナ諸島サイパン島に派遣し、スーサイドクリフに民間団体等が建立した慰霊碑で、維持管理状況が「不良」と判定した破損慰霊碑の埋設に関する手続き等について、現地関係機関と協議した。

派遣団は、11月13日、在サイパン領事事務所の高垣了士所長を表敬訪問し、マツピ山山頂にあるスーサイドクリフの平和記念公園内に民間団体等

が建立した慰霊碑の中で、14日は、破損慰霊碑埋設の許可申請に必要な書類を把握するために、現地政府関係機関である北マリアナ歴史保存局(HPO)、環境省(BE

趣旨及び埋設に係る実施計画について説明し、実際に埋設するには、北マリアナ政府観光局を除くすべての機関に許可申請書を提出する必要があることが分かった。

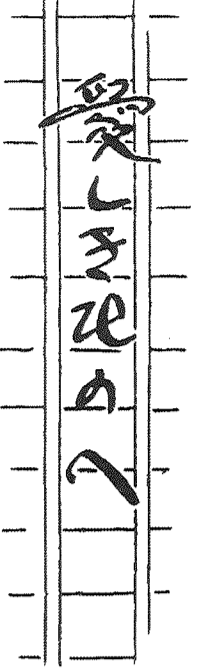
15日以降は、埋設作業を委託する業者が立ち合い、スーサイドクリフで実地調査を行い、埋設対象となる破損慰霊碑及び台座を19基と判定し、平和公園内で埋設に適切な場所を選定した。

また、破損慰霊碑には野生物局(FWS)の責任者と面会し、事業の観光局(MVA)、魚類

災害の影響によるものだけでなく、人為的に破壊されたとみられる慰霊碑も含まれていたため、環境省、北マリアナ政府

観光局に被害状況を通達し、環境保全に努めるよう要請した。

今後は埋設に関する許可申請に関する書類を作成し、関係機関に提出して許可を取り付けたうえで、来年3月を目処に埋設作業を完了する予定にしている。



母上様

陸軍中尉 仙洞田 藤一

昭和十九年九月九日  
フィリピン・ルソン島近海海上にて戦死  
山梨県南巨摩郡増穂村出身 二十五歳

さあ 待ちに待った〇〇が参りました。  
元気で帰ってきます。  
併し、未だこれ位の事では、死に場所を簡単には云へません。  
責任ある身なれば、慎重にやつて参ります。  
長船も連れて行きます。今夜はしっかりと磨きました。  
早や九月、今年は何処ですこしてふやら  
今夜は夕立あり、外は物凄い風雨です。  
この写真は、〇〇〇〇行動の際のものです。  
広く果てしない広野です。  
ではお元気で暮らしてください。

君が為 何の惜しまむ 命かな

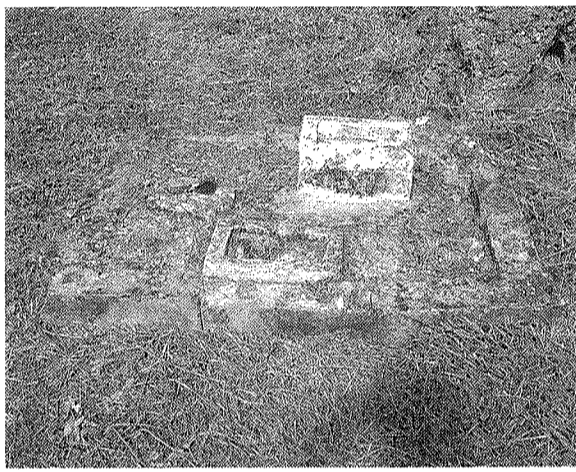
散りて 甲斐ある 生命なりせば

仙洞田 藤一

母上様  
昭和十八年九月七日

※文中の〇〇は、秘密事項の場所や名称などを手紙で明かさないうえの措置  
また「長船」は、日本刀の銘である。

【令和五年十二月靖国神社頭掲示】



平和記念公園内にある破損した慰霊碑と台座  
=11月15日、サイパン島スーサイドクリフで

## 九段短歌

選者 村田 信昌

面知らぬ父のさまごま思いやり「戦争」を詠む真向い  
てゆく  
父の味知らずに生きたこの我に三冠の尊格と米寿の祝  
奈良原 上田ゆき子

敵父より征つてこいよと背をおされ征とくまめたは何  
兵庫原 佐藤 和男

時のまさかも  
茶毘に伏さる父を見しとふ軍事使亡母の文箱に歳を重ねる  
佐賀原 松尾美津子

## シベリアからカザフスタンへ 民間人抑留者の記録

映画紹介

戦後、謂れない罪で旧ソ連(ロシア)から日本に戻れなかった日本人がいた。その日本人、阿彦哲郎、三浦正雄の2人が行方不明となった人は2千人以上存在すると言われている。その中で、カザフスタンに強制的に送られた人数はかなりの数にのぼるとみられているが、日本政府が把握でき

たのは18人である。そして、ソ連崩壊の時まで生き残ったのはわずか4人だった。

その4人のうち、阿彦哲郎と三浦正雄の物語を映画化したのが「阿彦哲郎と三浦正雄の物語」

中、日本人が知らなければならぬ事実を学ぶことが出来る貴重な映画をぜひ劇場で公開について  
・12月22日(金)より  
吉祥寺PARCO地下2階の映画館「UP LIN K吉祥寺」ほか全国順次公開  
映画に関する問い合わせ先  
・株式会社蒼龍舎 代表取締役・映画プロデューサー 吉村秀一  
・メールアドレス  
soryushan1@yahoo.com



第二次世界大戦後に戦争捕虜としてシベリア・モンゴルに57万5千人が抑留され、5万5千人以上が、日本政府が把握でき

成し、関係機関に提出して許可を取り付けたうえで、来年3月を目処に埋設作業を完了する予定にしている。

阿彦哲郎 戦争の囚われ人  
三浦正雄の子供時代  
戦争の囚われ人

## 戦没者等の遺留品返還事業 OBONソサエティへの 支援のお願い

日本遺族会は、アメリカで戦没者の遺品の返還活動を行っているNPO法人OBONソサエティが昨今の急激な円安、アメリカ国内の物価高騰などにより、運営自体が困難な状況に追い込まれている現状にあるため、OBONソサエティへの支援金を募ることといたしました。

OBONソサエティが継続して活動できるよう、そして遺品の返還事業が途絶えることのないよう、ご理解、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。なお、お預かりした支援金はすべて、本会を通じてOBONソサエティへ寄付させていただきます。

銀行名：三菱UFJ銀行 神保町支店  
普通預金：1616825  
口座名：一般財団法人日本遺族会  
ザイ)ニホンイソクカイ

## 地方だより

各支部遺族会で施された大会等は次の通り。

▼香川県 10月21日  
令和5年度戦没者慰霊祭(280人)

▼富山県 10月24日  
忠霊塔合葬戦没者二万八千余柱の慰霊祭(274人)

▼北海道 10月26日  
令和5年度全道女性部研究大会(70人)

▼福井県 11月6日  
7日 遺族会・組織継承研修会(92人)

▼島根県 11月7日  
令和5年度沖繩「島根の塔」追悼式(35人)

▼愛媛県 11月10日  
令和5年度後継者(青年部等含む)・慰霊巡拝参加者及び女性部と英霊研究会(100人)

▼滋賀県 11月15日  
19日 台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝(24人)

## お詫び

11月発行の第875号で、次の誤りがありましたので、訂正し、深謝いたします。  
・3面「戦没者遺骨35柱が帰還」の記事で、在カザフスタン共和国日本国大使館の大使名を、笠井達彦特命全権大使と記載しましたが、山田達彦特命全権大使の誤りでした。